

理数科通信

岩手県立水沢高等学校
第13号 令和5年1月11日発行

サイエンスキャッスル 2022 東北大会

令和4年12月18日(日)に山形県立米沢興譲館高等学校を会場として、株式会社リバネス主催のサイエンスキャッスル 2022 東北大会に、本校理数科から5つの研究班が参加し、A0版のポスター1枚を用いた、発表4分質疑4分のポスター発表をしてきました。

このコンテストは大学教授や民間企業の研究者が審査員となって、1位から3位までを表彰するものでした。岩手県からは本校だけで、ほとんど山形県内の学校が中心でしたが、東北六県から多くの参加者が集まりました。また、参加資格は高校生に限らず小中学生でもよいので、小中学生も若干参加し、発表していました。

本校から参加したのは以下の班でした。

- ・ 数学確率班「優勝する確率」
- ・ 数学数列班「数列の和の関係性について」
- ・ 物理電気班「クリップモーターを利用して非接触の発電機を作る」
- ・ 化学お茶班「お茶の味をコントロールしよう」
- ・ 地学班「液状化現象」



口頭発表で最優秀賞を受賞したのは、米沢興譲館高校の生徒で「ゼーベック効果を用いた太陽電池の高効率化」、また、特別賞は福島市立大鳥中学校の中学生で「泥電池の不思議」が受賞しました。また、最優秀ポスター賞は福島東高校の生徒で「イシクラゲによるトリチウム水の処理を目指して」でした。

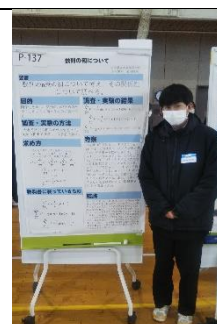
【数学確率班発表者の感想】

発表の上手な人や奥深い質の高い質問をする人(生徒)は、共通して研究や理数が“好き”であることが特徴にあると思った。好きであるから楽しいし知識も沢山ある。一方の私は「正直あまり今の研究に興味がなく、嫌々取り組んでいる。こんなのでよいのか。」と反省した。これからはもっと自分の好きなことと向き合えるような、後悔しない進路選択をしていきたいと強く思った。【小原麻依】



【数学数列班発表者の感想】

今回の発表を通して、自分たちでは気づくことができなかつたことを知ることができて良かった。また発表をする練習にもなって、自分のスキルが上がったように感じた。他の人のものも面白い発表がたくさんあって、とても興味深かった。これからは研究をもっと発展させていきたいと思った。【菊地琉翔】



【物理電気班発表者の感想】

サイエンスキャッスルに参加して、グラフの作り方や言葉遣いなど、ポスターについて細かく指摘していただいた。さらには、考え方のアドバイスや、これからはの方がいい事を教えてもらい、とても実りのある体験をした。これから直していきたいと思いました。また他の学校の発表を聞いて、もっと自分で研究してみたいとも考えた。そして、大学教授のポスター・スライドはとてもきれいに出来ていて、もっとがんばりたいと思いました。【降矢庵利】



【化学お茶班発表者の感想】

初めての公式な場での発表でしたが、自分たちが伝えたいことは大体伝えることが出来たのでよかったです。しかし、ポスターの準備が前日までかかりバタバタしてしまったので、次の発表ではそうならないように余裕を持って準備をしていきたいです。今回の発表で、アドバイスをたくさんいただいたので、今後の研究に生かして行きたいです。また他の人の発表で分かりやすい工夫をして発表している人がいたので、自分達も見習いたいと思いました。【千田なつみ】



【地学班発表者の感想】

自分がポスター発表をしてみて、考えをまとめて簡潔に話すことの難しさを知りました。自分がやってみたからこそ、ポスター発表の難しさを知ることが出来ました。他校の生徒は、難しい質問をされてもとまどうことなく自分の意見を話していて、すごいと思いました。色々なポスターを見て、改めて自分たちのポスターを見直すことができたうえに、質問に答えられなかった部分も考えることができたので良かったです。【今野七海】



サイエンスキャッスル2022 東北大会

12月18日(日) 山形県立米沢興譲館高等学校

